

寒い季節でも安心・安全な入浴を 入浴事故「ヒートショック・のぼせ」の予防法

～ノーリツでは、社会課題解決への取り組みとして給湯器に機能搭載～

湯まわり設備メーカーの㈱ノーリツ(本社:神戸市、代表取締役社長:國井総一郎、資本金201億円、東証一部上場)は、お湯のある生活を通じて人と地球の笑顔を生み出し、「新しい幸せを、わかすこと」をミッションに掲げています。本レターでは、寒さが日増しに深まっていくこの季節において、“入浴事故”の実態及び、その予防策についてご紹介します。

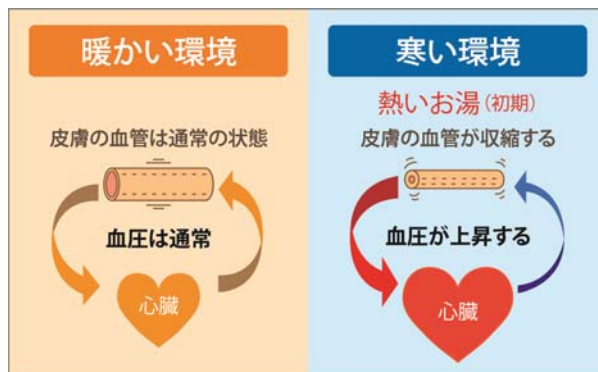
年々増加する「入浴事故」。予防策とは?!

日本国内での入浴中の死亡事故は年間約19,000人と推定されています。中でも家庭での浴槽内での溺死者数はこの10年間で約7割増加し、その9割が65歳以上の高齢者*です。

入浴事故の原因として代表的なものは、身体が温度変化を感じ、急激に血圧が上下することで心臓や脳の血管にダメージを与える「ヒートショック」があります。人間のからだは

急に寒さを感じた時、熱を奪われないように体の表面の血管を収縮させますが、この際、血管抵抗が増して血圧が上昇します。逆に暖かい場所に行くと血管は開き血圧は低下します。このような血圧の急上昇、急降下により、発生する現象がヒートショックです。

一般的な入浴パターンにおいても、ヒートショックが起きるメカニズムとして以下のような血圧の急激な変化ポイントがあることがわかります。



- ① 暖房している部屋から寒い脱衣所に移動して衣服を脱ぎ、寒い浴室に入ると、血圧が急激に上昇します。
- ② 暖かい湯船に入り、身体が温まると血管が拡張して、血圧が下がります。
- ③ 浴室を出て寒い脱衣室に移動すると血圧が上昇します。

*厚生労働省調べ

製品を通じて社会課題解決への貢献

ノーリツでは、社会問題となっている高齢者の入浴事故の軽減に役立てるよう、2017年、「見まもり機能」「ゆるやか浴機能」を搭載したガスふろ給湯器エコジョーズの新製品「GT-C2462」シリーズを発売しました。

また温水暖房付きガスふろ給湯器の最新機種「GTH-C2450-1」「GTH-C2451-1」シリーズでは、浴室リモコンが浴室内の温度を検知し、浴室が低温の場合に台所リモコンに通知する機能を備えました。



ガスふろ給湯器
「GT-C2462」シリーズ



温水暖房付ガスふろ給湯器
「GTH-C2451-1」シリーズ

【ヒートショック・のぼせ対策】

ヒートショック、のぼせ対策は①から④の内容が有効的です。誰でも簡単にできる方法と、当社製ガスふろ給湯器に搭載した機能を下記の表にまとめました。

ヒートショック、のぼせ対策	誰でも簡単にできる方法	当社製ガスふろ給湯器に搭載した機能	GT-Cに搭載	GTH-Cに搭載
①室内、脱衣所、浴室との温度差をなくす	脱衣場では、セラミックヒーターなどの簡易ヒーターを利用しましょう。浴室内はヒーターの利用が危険なため、事前に温める工夫としてシャワーによる浴槽へのお湯はりがお勧め。蒸気が部屋に熱を効率的に拡散させます。また、浴室マットなどで、冷えた浴室の床部分が直接体に触れない工夫も効果的です。	浴室暖房換気乾燥機(別売り)との組み合わせで、浴室および脱衣室の予備暖房が可能。浴室が低温の場合、台所リモコンでお知らせしますので、そのままボタンひとつで浴室暖房を開始できます。	—	○
②身体への負担を軽減する	肩からのかけ湯や全身浴は心臓など身体への負担になりやすいですが、かけ湯で肩を濡らして半身浴をすると、その部分が冷えて肩まで湯船に浸かろうとしてしまいます。かけ湯の際、湯船への入浴時も「おへそから下」を心掛け、上半身が冷えてくる場合は、乾いたタオルを肩にかけましょう	《ゆるやか浴機能》設定温度より2℃低くお湯はりをし、入浴を検知すると設定温度まで沸きあげます。	○	—
③のぼせ防止	入浴する際の温度は41度以下で、10分間以内を心掛けましょう。	《みまもり機能》センサーによって入浴を検知すると所定時間経過後に台所及び浴室リモコンに入浴時間を表示。浴室リモコンでは5分ごとに音でお知らせします。	○	○
④家族で見守る	入浴する際は、家族に声をかけて入浴しましょう。	《みまもり機能》浴室への入室後から、入浴、退浴、退室を検知し、動きを台所リモコンのランプでお知らせします。	○	○